

平成 29 年度 事業報告書
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を以下のとおり実施した。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 205 ヶ所に募集案内を郵送した。4 月 1 日～5 月 31 日まで公募したところ、59 件の申請があったが、選考前に申請取下げが 1 件あり、審査対象は 58 件であった。

6 月 19 日開催の選考委員会において慎重に審議し、提出論文採録の条件付き内定 3 件を含む計 9 件を採択とし、他に補欠 2 件を選考した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が平成 29 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 7 件に助成金を交付した。内定 3 件のうち 2 件は条件を満たしたが、1 件は論文不採録のため内定取消しとし、また、採択者 1 名から渡航のための査証取得が間に合わないことによる辞退があった。補欠者 2 件に繰上げを通知したが、1 件は他財団の助成を受諾していたため辞退、また別の 1 件は申請会議に不参加となったため補欠者の繰上げは無しとなった。

助成件数 7 件、 助成金交付総額 972,225 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
尾島 優太 修士課程 2 年 京都大学大学院情報学研究科	14th Sound and Music Computing Conference (フィンランド)	180,000 円
杉本 志穂 博士後期課程 3 年 九州大学大学院システム情報科学府	28th International Workshop on Combinatorial Algorithms (オーストラリア)	160,000 円
大沢 和樹 修士課程 2 年 東京工業大学情報理工学院情報工学系	International Conference on High Performance Computing & Simulation (イタリア)	180,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
安藤 映 助教 崇城大学情報学部情報学科	23rd Annual International Computing and Combinatorics Conference (香港)	70,000 円
GUO Ao 博士後期課程 1 年 法政大学情報科学研究科	14th IEEE International Conference on Ubiquitous Intelligence and Computing (アメリカ)	160,000 円
山下部 諒 修士課程 1 年 東京工業大学工学院システム制御系	IEEE International Conference on Image Processing (中国)	120,000 円
安藤 宗孝 博士前期課程 1 年 筑波大学システム情報工学研究科	30th ACM Symposium on User Interface Software and Technology (カナダ)	102,225 円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 205 ヶ所に募集案内を郵送した。4 月 1 日から 5 月 31 日まで公募したところ、9 件の申請があった。

申請者別： 受入れ者による申請 4 件 外国人研究者本人による申請 5 件

目的別： 調査・共同研究目的 7 件 国際会議参加目的 2 件

6 月 19 日開催の選考委員会において慎重に審議し、1 件を採択した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果の報告を受け、理事長が平成 29 年度外国人研究者交流助成金交付対象者を下記のとおり決定し、助成金を交付した。

助成件数 1 件、助成金交付額 160,000 円。

外国人研究者氏名・所属	参加会議	出発地	助成金額
Charles L. A. Clarke ウォータールー大学コンピュータサイエンス学部 教授	3rd Asian Summer School in Information Access	カナダ	160,000 円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成を平成 10 年度から 19 年にわたり行ったが、平成

28 年度を以って当該助成を終了とし、平成 28 年度の全体報告会及び懇親会を以下のとおり本年度に行った。

日時： 6 月 27 日 10 時～13 時

場所： 国立情報学研究所及び如水会館(東京都千代田区)

発表者及びテーマ：

①清雄一(電気通信大学) 超上流を重視したプロジェクトマネジメント改善フレームワークの調査研究とその拡張

②鷺崎弘宜(早稲田大学) クラウドを含む複雑なネットワークシステムのためのパターンを中心としたセキュリティ&プライバシー知識の扱い

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC2017)開催

競技開催費 11,932,244 円

ACM(国際計算機学会)が年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選としてICPC2017つくば大会を筑波学院大学と共同で開催した。

①経緯

開催協力校を筑波学院大学が務め、茨城県及びつくば市と共催して ICPC2017 つくば大会を行うことを財団 ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

②実施概要

日時： 平成 29 年 12 月 16 日～18 日

場所： つくばカピオ(茨城県つくば市竹園 1-10-1)

主催： ACM-ICPC つくば大会実行委員会、筑波学院大学、(公財)情報科学国際交流財団

大会委員長： 大島慎子(筑波学院大学長)

実行委員長： 高藤清美(筑波学院大学教授)

審判長： 石畑清(明治大学教授)

内容： 大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成 30 年 4 月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、7 月 14 日にインターネットを利用して日本国内予選を実施し 43 チームを選抜した。韓国、台湾、中国、シンガポールの 7 チームを加えた全 50 チームがつくばカピオで一堂に会し、12 月 17 日に本選を行った。国際大会のため、出題、進行等についてはすべて英語で行い、5 時間にわたるコンテストの後には、審判団からの問題解説、表彰式のほか、交流を目的とした懇

親会を行った。

また、コンテストの前後には、つくば市の筑波宇宙センター(JAXA)の見学、歓迎会、協賛企業見学で ICPC 参加経験者やエンジニアスタッフの話を聞くなど、参加者の見聞を広める機会を設けるとともに交流促進を図った。

参加数：国内予選(7月14日インターネットを利用して開催)・・・91校 391チーム

つくば大会本選・・・国内31校 43チーム、海外7校 7チーム 計38校 50チーム

(池辺記念奨励枠として、東京電機大学の1校1チームを選抜し、110,900円を充てた。当該枠の残額は、154,260円)

結果(大学順位)：1位東京大学、2位ソウル大学、3位東京工業大学

(日本の大学の中からは、東京大学、東京工業大学及び筑波大学の3チームが平成30年4月開催の世界大会への出場権を得た。)

(2)ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

①ICPC 世界大会への派遣(コーチ及び選手)

派遣補助 4チーム、計1,577,920円。

平成28年度の地区予選大会(ICPC2016 つくば大会)で選ばれた4チーム(東京大学、慶應義塾大学、東京工業大学及び会津大学)を5月20日～25日にラピッドシティ(アメリカ)で開催されたICPC世界大会へ派遣した。世界大会は133チームが参加し、派遣したチームの成績は、東京大学12位(銅メダル)、東京工業大学34位、慶應義塾大学及び会津大学は共に56位であった。

②ICPC 世界大会への派遣(指導者)

派遣 2件、計593,616円。

前述の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、財団 ICPC 運営委員長・笈捷彦理事長及びICPC2017 つくば大会実行委員・山島一浩教授(筑波学院大学)を派遣した。

③ICPC アジア地区予選への派遣

派遣補助 3チーム、計550,000円。

国内予選1位の東京大学(sleep 18000)をアジア地区ホーチミン大会(ベトナム、12月7日開催)へ派遣し、3位。国内予選5位の東京農工大学(nocow)はNakhon Pathom 大会(タイ、12月21日開催)へ派遣し、8位。国内予選8位の会津大学(UKUNICHIA)はテジョン大会(韓国、11月10日開催)へ派遣し、12位となった。

(3)ICPC に関わる予備練習会等の開催

過去に行われたICPCへの参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

①本選参加チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標に、9月22日～24日にわたり国立オリンピック記念青少年総合センターにおいてつくば大会に向けた強化合宿を行った。

参加者：選手55名(14大学)、スタッフ10名計65名 開催補助費：200,000円

②11月19日にドワンゴ社会議室(東京都中央区)において模擬練習会を行った。

(4)ICPC2018 の開催

1 月 9 日の ICPC 運営委員会において、開催協力校として慶應義塾大学を選定、大会委員長に高田眞吾教授(慶應義塾大学)を選任し、平成 30 年 12 月 8 日～10 日に横浜産貿ホール・神奈川県民ホール(神奈川県横浜市)における ICPC2018 横浜大会の開催について理事長が決定した。また、2 月 23 日の同委員会で審判長に石畑清教授(明治大学)が再任され、理事長が決定した。

以上